

2016 国際平和のための世界経済人会議実行委員会

Session5：世界経済フォーラムのヤング・グローバル・リーダーズとの対話【未定稿】

《登壇者（敬称略）》

・モデレーター

竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

○司会者

皆さんありがとうございます。そうしましたら、次のセッションに移っていききたいと思います。特別なセッションになります。われわれは、非常に才能あふれる人を選んできております。ヤンググローバルリーダーズという形で来ていただいております。今日は来ていただきありがとうございます。皆さんこそがこの世界を変えていかれると思っています。より良い社会に変えていただけたらと思っています。だからこそ、皆さんを今日はこちらに招待いたしました。ぜひ皆さんの経験をお話しいただきたいと思います。広島に到着してからの経験についてお聞かせください。美術館、博物館、平和公園、そういった所に行かれたと思います。被ばく者との対話も持たれたと思います。

今日は本当にありがとうございます。広島での滞在は短期間だと聞いております。しかしながら、その貴重な時間を抑えていただき本当にありがとうございます。そして、今回のこの機会を特別なものにするために私の友人を招きたいと思います。このセッションを率いるのに最も適した方であります。竹内先生、ハーバード大学経営大学院からお越しであります。ダボス会議には13回行かれております。毎年行かれていていると思います。では、竹内先生どうぞよろしくお願いいたします。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

では、ステージに登ったほうがいいのですか。こちらでいいのですか。プロトコルはどうなっているのですか。

○司会者

どこでもいいですよ。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

では、このヤンググローバルリーダーズの皆さんと幾つかセッションをやっていききたいと思います。まず、残ってくださりありがとうございます。来てくださっていたのですね。ありがとうございます。何人かとはもうすでにお会いいたしました。なぜ、私がこ

ここにいるのかについてまずお話ししたいと思います。私は今ボストンに住んでおります。それで、東京には3日滞在しておりました。スケジュールとしてはなかなかこちらに来るのは難しかったのですが、加治さんがなんとかアレンジをしてくださいますて来ることができました。7時半のフライトで東京に戻らなければいけません。広島に着きましたらもう10分前ということです。非常に貴重な時間となっております。

三つの理由があって今回この神風トリップをすることに決めました。まずひとつ目の理由、それはフィリップ・コトラー先生がいらっしゃるということでした。覚えておられないと思うのですが、マーケティングの博士号のコンソーシアム、1975年のコーネル大学でのことです。私はその参加者の一人でした。そのとき博士号を取ろうという方が44名いたのですが、カリフォルニア大学のバークレー校におりました。コーネル大学において先生がスピーカーのうちの一人だったのです。ですので、その44名のうちの一人が私でしたので、覚えておられないと思います。

しかしながら、本当にさまざまなひらめきを先生からいただきました。そして、そこでアカデミック（学者）になろうと決めたわけなのです。実は、検事から仕事のオファーがありましたが、それは断りました。そして、なぜそんなばかのことをしたのだとあとから思ったものなのですが、本当に先生からは影響を受けました。本当に私の琴線に触れたと言いますか、心が動いたのです。マーケティングというのは、お金をつくるだけじゃないのだと。先生のこれまでのお仕事というのはまさにその証明だと思います。マーケティングというのは、実際に共通の良いことができるということです。本当に40年たってここで再会できてとてもうれしく思っております。ありがとうございます。

そして二つ目の理由ですが、こちらに参りました理由です。クラウスがいないのでちょっと残念であります。世界経済フォーラムのヘッドの方であります。皆さんご存じだと思います。クラウスさんは13回、私をダボス会議に招待してくれています。そして毎回、妻と一緒に行くわけですね。その理由といたしますのは、彼女の父親はスイス大使だったわけなのです。ですので、毎回ダボスの連れていきますと妻はとても喜んでおりました。これが3日ぐらいしか機嫌がいいのは続かないのですが、それでもとてもうれしかったです。

スイスというのは、彼女にとっても特別な場所です。15歳のときのお母さんをスイスで亡くしました。5年ぐらい前までは母親のお墓がスイスにあったのです。ですので、スイスに妻を連れていくというのはとてもセンチメンタルな（感傷的な）旅にもなりました。ダボスはスキーのためだけに行っているのではないのです。妻のためにも行きました。ということで、世界経済フォーラムには感謝をしております。13年も連続

で招待をいただきました。クラウドさんがどこにいたとしても、です。本当にありがとうございます。

さて、ここに参った三つ目の理由ですが、加治さんが言ったように私は彼のお母さんととても親しくしています。国際基督教大学で会いまして、海外でゴルフをしたこともありますし、大体もう 10 回ぐらい一緒にゴルフをしたことがあります。ゴルフコースで例えばスコットランドやいろいろな所で 7 日間、9 日間ほどでしょうか、一緒にゴルフをしたことがあります。加治さんのお母さんもよく存じ上げております。加治さんが「これやってくださいね」と言われますと断ることができないのです。加治さんのお母さんが私よりも 2 歳年上ですので、先輩に一度なったらもうずっと一生先輩なのです。ですので、加治さんご招待ありがとうございます。ということで、3 人から 4 人ほどこちらに座っていますよね。どのようにやっていくのですか。紹介をしたいのですが。

○発言者不明

何ですか。今の状態のままです。そのまま座った状況でいいですよ。彼らはそこに座ったままです。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

分かりました。いつか 4 人ということなのですよ。どうして 4 人選んだのですか。ここに座ってもいいですか。構いませんか。いいですよ。大丈夫ですね。これは世界経済フォーラムですので何でもいいと思います。さて、だれでもボランティアでいいのでこちらに上がっていただけますか。私には特別な席が用意されました。あと二人です。お願いします。ステージの上に上がってください。

YGL の人たち、それからハーバードビジネススクールの方も必要です。特別ないすが来しました。言ったとおりにになりました。皆さんこのきれいなほうのいすに座ってください。私は立ってやります。皆さんそっちのほうがいいですか。どうぞ。YGL の方々は、この白いきれいないすに座ってください。皆さんのために用意しました。ここからですが、そのあと残りの 5 人の方にもお話しいたしますが、何をしてはいけないのかというのを最初の人たちの様子を見て学んでください。

最初の 4 人ですが、皆さんにとっては短い滞在期間だと思うのですが、広島の一部を見てこられたと思います。また、被ばく者の方ともお会いされたと聞いています。ということで、二つのことをお願いしたいと思います。まずひとつ目、自己紹介をお願いします。皆さんのお名前、何をしておられるのか、そしてなぜヤンググローバルリーダーになったか。30 秒ぐらいでまとめてください。それから、短い滞在ではありますが、今

回の訪問においてどういう印象を持ったか2分ぐらいでお話してください。いいですか。お願いします。マイクを持っている方からいきましょう。あなたから始めていきましょう。レディーファーストでは？いいのですよ。

○発言者不明

42歳、ポルトガルから参りました。私もハーバードビジネススクールから来ておりますので、来ることができてとてもうれしく思っております。日本に来るのは初めてであり、また広島にも今回初めて来ました。1日目です。なぜヤンググローバルリーダーズになったのか。その理由はあんまり聞かされてないので分からないのですが、幸運なことに幾つかのシニアポジションを産業の中で、業界の中で得ることができたということがあります。

私の人生の中で、またもっと若いときにそういうことをやってきました。今はベンチャーキャピタリストをやっております。テクノロジーに投資をしております。世界中にチームを持っております。特にヨーロッパ、シリコンバレー、それからロンドンにチームを持っております。広島に来たということなのですが、とても特別な経験でありました。日々の生活の中で忘れがちなのが、やはり世界で起こっていることに対して紛争や問題といったことに関して感覚を失ってしまうことがあります。でも、広島に来てけさ拝見をいたしました場所、それからレガシーについても触れてきました。

そして、どういった価値観を持って暮らしていくべきなのか。何について闘うべきなのか。来る仕事においてもそしてまたほかの人に、世界中で影響をどのように当てていくべきなのかということ。これを考えました。そしてまた、被ばく者の方からのお話も聞きました。これはとても重要なことで、これは忘れてはいけないと思いました。こういった悲劇を状況がどうあれ繰り返してはならないと思っております。これは世界経済フォーラムであってもなくてもとても重要だったと思えます。

特に、われわれの家族、子どもたち、そして世界たちの友人たち、Twitterやフェイスブックなどで回っていますが、そういった人たちのために非常に広島のメッセージは深いメッセージであると思えます。広島が悲劇の象徴だけではなく世界中の人に伝えていかなければならないということなのです。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

素晴らしいです。ありがとうございます。それでは、あなたはどうか。どんなコメントでもご質問でも結構です。オーディエンスの皆さま方からお受けしたいと思います。4人の方々をまずお聞きしてからです。

○Elaine Smith

ブラジルから参りました。Elaine Smith と申します。私は、昨年から世界経済人会議ということで、ヤンググローバルリーダーズで仕事をしております。ソーシャル・アントレプレナーは起業家ということで私が選ばれたのだと思います。そして、次世代のファミリービジネス、エンゲージングソサエティーというところからです。私の場合、クラウドファイナンスなのですが、私が思いますには最も重要なことは、広島を訪問するだけではなく各セッションのパネリストにお話を聞くことも重要でした。そして、生命の重要性、価値というものを理解するということが重要です。

特に、われわれの国は2億人の人口なのですが、私の世代、私の親の世代、私の祖父・祖母の世代というものは、やはり飢饉などさまざまな苦しみを背負ってまいりました。これはただ単に本を読むというだけではなく、テレビを見るだけではなく実際にこちらに来て博物館に行ってみることができた。すなわち破壊されたビルを見ることによってどれだけこの悲劇が起こったかということがわかるわけであります。これはただ単にわれわれだけに重要なわけではない。特に、このような情報を次世代に伝えていかなければならないということなのです。

そして、われわれが理解しなければならないのは、もちろんこの悲劇の体験というのは貴重なものであるということを理解するだけではなく、理解することが重要なのです。すなわちこれはわれわれだけの問題ではないということ。そして、この世界経済人会議において仕事をする上で世界をより良いところに変容させていこうというプロジェクトです。ですから、私のこのメッセージを伝えていくことが私の役割だと思っています。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

Elaine さん。今、日本にいるわけですね。そして、リオオリンピックについてまずお祝いを申し上げたいと思います。ブラジルの素晴らしい成功でしたね。ありがとうございます。お二人の方はポルトガル語を話す国から来られたわけですね。それでは次です。

○Sam Gregory

Sam Gregory と申します。私は英国出身ですが、今ニューヨークに住んでおります。人権ネットワーク WITNESS で仕事をしています。グローバルでどんな人でもアクセスできるような形です。そのテクノロジーを使って人権に対して擁護していこうという活動を続けています。私は広島に来たのが2回目です。そして、最もパワフルなところというのは、先ほどおっしゃいましたが、Stephan が言ったことです。

レガシーサバイバーは被ばく者の方々ですよね。ヤマオカさんが、お母さんあるいはおばさんがどういったことを経験したかお話しなさったわけです。非常にパワフルです。このストーリーをいつまでも伝えていくということが重要です。すなわち被ばく者の方々の高齢化がどんどん進んでいるわけで、この話をこれから残していくか、そしてわれわれとして強くメッセージを発していくかということが重要です。

さらに重要なのは、私は人権ネットワークを行っているので、やはり平和と人権というものが非常につながりの強いもの、深いものであります。ですから、「white peace matter」これは抽象的なところだけではなく、やはりパーソナルな（個人的な）コンセプトとしてそれぞれが受け取らなければならないということ。そして、特にこの会議にまいりまして、「peer to peer」のコミュニケーションがどれだけ重要か、平和というものを日常の会話のなかに組み込んでいくということがどれだけ重要かということが私自身学んだことであります。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

Stephan, それから Gregory, コミュニケーションについて話をしましたよね。伝えていくということですが、これらの人々に対して影響力を与えているのはあなたじゃないですか。はい、それでは次どうぞ。

○Drue Kataoka

教授、ありがとうございます。Drue Kataoka と申します。カリフォルニア北部のシリコンバレーがベースです。生まれたのは東京で、私の父が日本人、母がアメリカ人です。ということで、東と西の融合ということになります。それから加治さん、素晴らしいゲストの方々、本日広島にまいりましたことを非常にうれしく思っております。1日目からも非常に楽しかったです。いろいろ橋渡しができたからです。

私は伝統的なテクニックということで墨絵が好きです。大規模なステンレスステルスカルプチャー（彫刻）など、さまざまなことをやっています。そして、アートワークはブレインウェーブ脳波であるモバイルのプラットフォームを使ったり、バーチャルリアリティを使ったり、そしてグローバルな形でこういったプロジェクトを行っています。アートとテクノロジーの融合に関して社会的なインパクトを与えようということ、そして調和を保つてこうということを行っています。

今日はたくさん私自身学びました。禎子の折り鶴を見ました。折り鶴は、写真あるいはウェブで、非常に世界中で広がっているのをみんな知っているのですが、その

迫力さを初めて見たのです。小さなディスプレイでした。そして、最後の鶴を折ったところがありました。これはまだ完成してないのです。折り紙のところで半分に折っただけなのです。これがやはり最も重要なところだったと思います。

彼女自身、決してあきらめなかった。最後の最後まで生命の終わりになるまで折り続けた。そして、まだ終わっていない、完成していない鶴をわれわれに残してくれたのです。この鶴を完成するのはわれわれの責任だということ。そういったメッセージを彼女が伝えてくれているわけです。すなわちそれが彼女の平和のガーディアンとしての役割だったと思います。

私自身さまざまなマーティン・ルーサー・キング先生のペーパーパーを読んでいます。あのスピーチは非常に有名です。しかしながら、unfinished the dream, まだ済んでいない、まだ終わっていない夢というスピーチもあるのです。これも重要なスピーチなのです。まだ終わっていないもの。これはわれわれにそれを完成しなさいというメッセージを残しているからです。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

素晴らしいスピーチです。unfinished business, まだ終わっていない仕事, まだ終わっていない事業ということですよ。それでは、フロアをオープンにしてディスカッションしていきたいと思います。何かコメント、例えば Stephan, Elaine, Gregory, Drue が言ったことに関して、あるいはあなた自身が受けた印象について、彼らが言ったことに対してどのように思われたか。日本語、英語どちらでもいいと思います。あるいはポルトガル語でもいいです。はい、どうぞ。マイクをお願いいたします。

○ネッツ・ツノ

ネッツ・ツノと言います。パブリックディプロマシー、ソフトパワーで仕事をしていきます。地域的なコンテキスト、unfinished the business ということをおっしゃいましたが、地域的に考えていただきたいのです。広島と世界。広島というのはやはり被ばく者、すなわち犠牲になった都市だと。初めて原爆の被害を受けた所ということが分かっているわけです。こういった恐怖があった所ということですが、これから日本のなかでもそうなのですが、さらに東アジア全体で見てどうかということ。まだまだ終わっていないビジネスがあると思うのです。すなわち中国や韓国や日本、こういった関係でもってまだまだ終わっていない道のりがあると思います。

ですから、大きなコンテキスト（文脈）で、南アジアで対立が起こっている所もあります。日本としては南シナ海でどういった役割をすべきなのか。そして、さらに過去と将

来をどのようにつなげていくのか。これは被ばく者だけでなく、これからわれわれの未来の世代に関しても受け継がれていかなければならないところだと思います。

時にオバマ大統領が5月にこちらに来られました。非常に興味深いです。生徒にも「スピーチどう思う？」と聞いたのです。「謝りましたか」「いや、謝らなかった」と言っているのです。ですから、われわれの見解とは違うということです。もちろん原爆を落としたということに対してのおわびというものはあったと思うのです。しかし、それぞれの世代で受け止め方が違うということです。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

そうですね。私が初めてアジアに行ったのはマニラだったのです。そこでフィリピン人が横に座っていました。そしてフィリピン人が直接的に言いました。「私の父は日本人によって殺されたのだ」と。それが現実として目前に突き付けられたわけです。われわれにはそういう歴史があるわけです。では、どなたかコメントをいただけますか。Gregory お願いします。

○Sam Gregory

私は日本また東アジアについての専門家ではないのですが、ビルマやミャンマーなどで仕事をしております。これはやはりイギリスや中国、日本もかかわってきた国であります。さまざまな問題というものがまだ残っております。その経験から考えますと、やはりしっかりとした正直な意思決定をしないということがそのあとどんどん問題が引きずってしまうということがあると思います。ですので、やはりひとつの言説だけではなくていろいろな国の観点からの言説というものをみんなで聞いてみるのが重要だと思います。

そしてまた今、暴力がムスリムのマイノリティーに対して行われています。これはビルマの北部にありますロヒンギャに対して行われている。これに関して少数民族に対してヘイトスピーチがなされるなかで、それにカウンターという形でフラワースピーチという言説も出てきています。ですので、ストーリーをシェアし、そして話をするというのはとても興味深い戦略だと思います。ヘイトスピーチのような言説にカウンターのスピーチで対応するというのはとても重要だと思います。そういったところから、われわれの責任は始まって日々のソーシャルメディアなどでもそういった形でカウンターの作業をしていくことができると思います。

追加していいですか。アジアだけの問題ではないと思います。明確にやはりすべての国が歴史のなかで侵攻者であり、そしてまた犠牲者でもあったということです。200年、

2000年というふうなスパンで見ますと、世界中のどの国もすべていずれも侵攻した経験があり、また犠牲者であった経験もあると思います。しかし、すべての国が考えなければいけないのは、やはりそれをしっかりと認識をすることです。自分たちが侵攻者であった、侵害をしたということ。それを理解しなければいけない。しかし、すべての国がこういった器量を持ち合わせていないということが現状です。残念ながら、まだその面では正しい方向にはいっていないと思います。

ここでお伝えしたいのはあるひとつのストーリーです。これは個人的なことです。時に歴史というのはその状況は変わっていくということなのです。私の父親はポルトガルの特別戦隊におりました。モザンビークで業務をしておりました。それは、アフリカでも60年代まで植民地であったのがモザンビークでした。私は2回モザンビークに行ったことがあります。2回目行ったときに、モザンビークの元ゲリラ部隊の息子と友人になったのです。私の父と彼の父が60年代にもし会っていたらお互いに殺し合っていたかもしれないわけなのです。

でも、実際には30年、40年たってからゲリラで会った人の息子と会いました。そのときに彼の結婚式にも行ったのですが、やはりこういった問題を乗り越えなければいけません。お国の間にある問題にできるだけ早く、しかし乗り越えるためにもいろいろなものを認めていかなければいけないと思います。特に、リーダーがやはり和解というものをしっかりとやっていないということがある。しかし、これをやっていかなければいけないと思います。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

個人的なお話を披露してくださってありがとうございます。さて、新しいグループをお招きしましょうか。5名おられますね。何かありますか。どうぞ。

○発言者不明

すみません。ひとつだけ申し上げておきたかったのです。平和を達成するためにアート（芸術）がとても重要だということです。そして、われわれの歴史を見るときに最も重要な芸術の反戦争もしくは平和に対する作品というのは、ピカソの『ゲルニカ』です。とても面白い逸話があるのです。2003年に当時のアメリカのコリン・パウエル氏が安全保障理事会でイラクへの侵攻について発表していたのですが、『ゲルニカ』のタペストリーがあったのです。そういった議論をするときに『ゲルニカ』のタペストリーをカバーしないといけないということがあったのです。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

それは知りませんでした。そのお話ありがとうございます。皆さん4人の方に拍手をお願いします。では、残りの5人の方ステージに登ってください。お一人はこちら。少し座り心地の悪いいすに座っていただかなければなりません。どうぞステージに上がってください。何が行われるかも分かっていますよね。30分あります。特別ないすが増えました。ご覧になってください。素晴らしいサービスです。そして、効率もいいですね。日本のサービスの質は高いです。これはボストンでは期待できません。広島大学は素晴らしいですね。ありがとうございます。これはハーバードでは絶対期待できないレベルのサービスです。

ということで、いいいすをもらいましたのであなたからいきましょう。どうぞ。どなたですか。Luisaさん、マイク入っていますか。

○Luisa Ribeiro

Luisaと申します。私もブラジルのリオ出身でポルトガル語を話します。きのう到着しました。長いフライトでしたが、来れてうれしく思っております。初めて日本に来まして、私の日本における最初の1日が広島です。とても興味深い1日を過ごしました。皆さんが言っていることをこれまでの議論について、いろいろな人の話をして、いろいろな状況についてここまで聞いていたのですが、私が考えていたのは、今日の経験で興味深かったのは、だれもが言っていたのは平和が欲しいということでした。

しかし、いろいろなことが起こっているいろいろな経験をしたにもかかわらず、自分たちを犠牲者の場所には置いていなかった。それはとても興味深いことだと思いました。世界からの見方としては、広島はいわゆる犠牲を受けた場所だと言われていますが、今日お話をした人はそのように自分たちのことをとらえていなかったということで驚かれたわけです。

○Bruno Sanchez

ルイーザという発音でいいですか。

○Luisa Ribeiro

ルイーザです。

○Bruno Sanchez

招待ありがとうございます。Bruno Sanchezと申します。データサイエンティストを世界銀行でやっております。私の仕事というのは、ビッグデータを使って発展途上国に違いをもたらそう、改善していこうということなのです。シリコンバレーで使われている

テクノロジーといったものをベースとして、それをいかにして貧困を削減するために使えるかということをやっています。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

どこから来られたのですか。

○Bruno Sanchez

スペインから来ています。もともとは物理学者なのです。それから原子エネルギーといったことに関しても言及しました。ですので、サイエンティストやエンジニアがこちらに来て技術が何をし得るのかということ学ぶべきだと思います。いいこともできますし、そして広島だったような最悪の事態を招くこともあるということを見るべきだと思います。

やはりこの国が使っているエネルギーやがんの治療にも使われているということもあるわけです。ですので、このテクノロジーというのはとてもパワフルなものです。しっかりと何をし得るものなのかということもいいことも、悪いことも知っておくべきだと思っております。何が起こったのか、起こったことを見ていくというのはとても重要だと思いました。広島で起こったことを人間のレベルで何が推しうるのかということ学んだ。こういった文脈を学ぶというのはとてもパワフルなことです。特にサイエンティストが見るべきであると思います。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

そうですね。科学者の立場ということで素晴らしい見解だと思います。Bruno さんですね。

○Bruno Sanchez

はい。

○Francesca Colombo

ありがとうございます。Francesca Colombo と申します。イタリアからまいりました。私はピアニストであり、エンジニアでもあります。イタリアでアート&カルチャーのマネージャーとして仕事をしています。東京は初めてではなかったのです。私が東京でオペラディレクターをやったとき、2011年3月に福島でパフォーマンスを行いました。7日間のトスカのオペラを行ったのです。ほとんどはキャンセルしなければならなかったのです。300人のオーケストラの人々を呼ぶことができなかったということがありました。震災ということで怖かったので戻らなければならない人もいませんでした。日本の人に

ぜひパフォーマンスを与えたかったということで、怖かったです、皆さん方が助けてくださってオペラをすることができたわけです。

広島は初めてです。非常に最も強い経験だったと思います。強すぎたかもしれません。もう外に出なければいけないような気持ちになったときもありました。そして、最後の日はもう行けなかったのです。というのは、息ができなかったのです。もちろん私は広島の歴史を本では読んだことがあります。しかし、自分の目で見ると、そしてここにいるということはやはり強い印象でした。ですから、すべての人が平和に対して闘いたいとしたらぜひここに来るべきだと思います。決定をする人はぜひここに来ていただきたいと思います。

そして、さらに強く感じたこと、驚いたことは、被ばく者の方は女性だったのですが、娘さんだったのですが、お母さんの経験をお話しになりました。しかしながら、彼女はアートを使ったのです。パワーポイントのプレゼンテーションをなさいました。そして、絵を描かれたのです。どういったことが起こったかということに対して絵をお見せになりました。非常にそれがパワフルだったと思います。

といますのは、アートというのは素晴らしい道具になるのです。われわれがメッセージを世界中に送りこむ。非常に強いメッセージを送る。非常に強いツールになるわけです。歌もそうですよね。この悲劇に対してアートとカルチャー（文化）というのは、やはりさまざまな力を持っていると思います。ですから、とにかく強い印象を受けたということです。アートのパワーということが非常に強かったです。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

とにかく部屋を出なければいけなかったのですね。息もできなかったから、部屋を出なければ行けなかったということをおっしゃいました。これがもうすべてを物語っていると思います。イタリアからいらした Francesca さんですね。ありがとうございます。

○ナン

皆さんこんにちは。私はベトナムから来た起業家です。子どもは目の見えない子どもたちに対してアートクラスを提供しています。アートワークをつくって、これを製品としてマーケットでこれを販売してお金を得るというような作業なのです。ですから、得たお金で遊技場を造ったりしています。そして、そこで子どもたちが遊ぶということです。

私が広島に来て最も印象深かったところは、悲劇のあと広島は平和の都市を造ろうと決めたわけです。そして今日、このような平和の会議を行っておられるわけです。平和を

世界中に広めようとする仕事をなさっておられる。これは素晴らしいことです。都市がモデルとなっています。私は数カ月前にブータンから戻りました。ハッピービジネスということなのです。彼らがブータンでやっているのは、愛を広めていこうというものなのです。世界中に愛を広めていこうということです。そして、子どものイノセンスを大人にも広げていこう、互いに助けていこうということです。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

あなたの名前はナンさんですか。

○ナン

はい。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

ベトナムはさまざまな最近だけではなく歴史上さまざまな事象を乗り越えてこられました。ブータンに行こうと思ったのはどうしてですか。

○ナン

ブータンという国はハピネス。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

GNH (Gross National Happiness) といっていますよね。

○ナン

GNH という指標を使っていると思います。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

どうしてブータンに行きたかったのですか。

○ナン

私はもっと GNH をもっと知りたかったのです。そして、経済開発・経済発展というところのブラックサイドの部分を見たかったのです。新しい開発ということで、GNH でもって見ていきたくったのです。これが非常に重要だと思ったのです。経済発展をすれば、すなわちバランスの取れた経済発展をしなければどうなるか。国の自然が破壊され、そしてわれわれの生活も破壊されるわけです。ですので、これは非常に大きな問題であると思いました。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

ありがとうございます。最後ですね。重要なところです。

○スペル・デザール

ありがとうございます。スペル・デザールと申します。ブルガリア出身です。今現在はシリコンバレーに住んでいます。そして、私の閉経ですが、広告アルゴリズムを研究しています。起業家でもありまして、シリコンバレーでスタートアップ企業を興しています。今日の経験というのは、非常に素晴らしいものです。みんなよく分かっています。もうみんな驚きました。声を失ったわけです。

Bruno が言っていたのと同じなのですが、もうテクノロジーという力の比類なきプレゼンテーションなのです。この部屋はもちろん照明がありますよね。素晴らしいテクノロジー。しかしながら、これがこのテクノロジーを使って一瞬にして世界を破壊してしまったということなのです。私も物理学をやっています。数学も行っています。国際関係も勉強しました。

ですので、物理学者として天才的な技能を使って第二次世界大戦が終結したのがこの原子爆弾を落としたということなのです。もうこれを知ったときに、私どもはもう感情的に非常に目を閉ざしてしまいました。テクノロジーのパワーは何なのかを考えるいい時期だと思うのです。素晴らしいテクノロジーをつくるだけではなく、このような破壊的な力も持っているということを考えなければなりません。

例えば、ソーシャルメディアがテロに使われている。それからエクストリーム、人種差別化であるとか、さまざまなエクストリームにこういったテクノロジーが使われてしまっているということなのです。マイクロプラットフォームをつくっている。そして、これがパワフルで危険な社会をつくり上げる危機になってしまっているということなのです。ツールになってしまっているということなのです。

私の友達にスマートなエンジニアがいるのですが、シリコンバレーでもこのテクノロジーを使って何かをしなければいけないと思ったのです。世界中に何かを伝えていかなければならない。すなわちこの醜い力に対して対向していく力を付けなければならぬと考えたわけです。

ソーシャルはさまざまな形でネガティブな目的で使われていることがあります。ですから、ソリューションとしては、われわれは長期的にこれらに対向する手段をつくらなければいけないということなのです。ソーシャルはとにかくテクノロジーベースでのサイ

エンスなのです。そして、人間の想像力を使ってこのようなテクノロジーをつくるということなのです。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）
あなたの名前を発音しようと思っていません。

○スウェット・バザール
このスペルを書くのです。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）
スウェット・バザールさんですか。分かりました。
ということで、9人のヤンググローバルリーダーズのお話を伺いました。そして、今日は講演にコトラ先生もお越しです。彼はハーバードビジネススクールでゴールドコースルといわれているのですが、ここまで9人のヤンググローバルリーダーズの話聞いて何かコメントはありますか。

○発言者不明
全員いろいろな方の話を聞きました。もっとお話を聞いてみたいです。とても感心しました。本当にわれわれの暮らし、人生というのが単にキャリアだけでなくそれ以上のことを成し遂げようとしていることが素晴らしいと思います。とにかく生活をするための仕事ということではなくて、皆さんの話を聞いていて良い人生とはどういうものなのかということを考えて仕事をしているということが分かりました。

そして、ミレニアム（千年紀）という話がありました。若いジェネレーション（世代）の方々というのは、インターネットとともに育ってきました。ですので、考え方としてとてもいいものがあると思っています。自分たちの経験についてお話をしてくださいましたが、彼らはここで何が起こったかということについては知っていたけれども心の感情まではそれに付いていっていなかったわけです。お部屋のなかにとどまっていられなかった。最後の部屋に行かれなかったとおっしゃいましたよね。それぐらい心が揺さぶられたということだと思います。

ですので、やはり多くの人に広島に来ていただいて、そしてそのような形で世界が何をしなければいけないのかということに関する、そして平和に対する実感を得ていただくということだと重要だと思います。そういう意味で、今回のこのグループの話聞いてとても感銘を受けました。ありがとうございました。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

それから、お隣の方もおられますね。この人もとても熱心に聞いてくださっています。ユウキさん何かコメントありますか。日本語でも。

○ユウキ

コールというのはスタンフォードではあまりないのです。

○湯崎 英彦（広島県知事）

ありがとうございます。私は広島県知事をやっております。ホストの観点から申し上げます。皆さん来てくださり本当にありがとうございます。とても感銘を受けました。皆さんの有能さということだけでなく、皆さんはもちろんヤングリーダーズでいらっしゃるわけで本当に優秀な方々であるわけですが、同時に人間としてのパワーも素晴らしいと思いました。その人間としての教訓をしっかりと受け止めてくださったわけです。

感情的なインパクトはとても重要なことだと思っています。感情面というのはサイエンスよりも重要だと思っています。多くのサイエンティスト（科学者）は広島に来ます。そして、どういったテクノロジーのインパクトがあるかということを考えられるわけです。悪くも使えるし良くも使える。そういうことについて見ていただけます。

また、政策決定者においても彼らが広島に来ると考えるのは、国の戦略についても考えていくわけです。例えば抑止力として核弾頭を持たなければいけないのだという考え方に出てくると。一斉の爆弾を地球上で爆発させられればどうなるのか。実際にひとつ核爆弾を爆発させた場合、一体何が人間になされるのか。どういう被害が出るのかということが本当にここに来れば見て取れるわけです。その現実が分かる。

これは、どういった職業であったとしても、さまざまな別の文脈にも当てはめることができます。これをしたときのその結末はどうなるのかということを考えるということなのです。それがソリューションになり得ると思います。資本主義があまりにも極端な方向に行っている。では、何がその後起こってしまうのかというような想像力を働かせるということがとても重要だと思っています。ですので、皆さんがそういった想像力を働かせる力をお持ちだということがうれしかったです。本当にありがとうございます。そして、友達や家族と皆さんの経験についてぜひ話をしてみてください。ありがとうございます。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

そしてまたハーバードの人間がマイクをお渡ししましたが、快く受けていただきありが

とうございます。英語でも日本語でも構いませんのでコメントや質問をお願いしたいと思います。マイクをお渡しいたしましょう。ありましたか。はい。

○松田悠介（認定NPO法人 Teach For Japan 代表理事）

松田悠介といます。Teach For Japan の設立者です。質問なのですが、この会議は YGL ではないのですか。私はグローバルシェイパーなのです。次の世代ということなのです。より若い世代ですね。この座談会や会議はとても重要だと思います。話すだけでなくアクションを取ることが重要だと思います。

非常に今回の日本、広島への訪問でとてもひらめきを得られたと思いますが、どういったアイデアを着想して、そして自分のビジネスにどう生かしていけますか。もしくは、自分の帰って日々の仕事にどう生かされますか。何か分かりますか。もしくは、どういうアクションを取ろうというコミットメントなされますか。

この4人は非常にパワフルな経験をされたと思うのですが、皆さんもステージにいると思ってください。Gregory さんどうぞ。

○Sam Gregory

そうですね。非常に個人的にもパワフルな経験をしました。そして、広島に来ることができたというのはとてもありがたいことだったと思っています。一緒に仕事をしている多くの人たちは、私よりも平和にとってもコミットメントしている人もいますが、来ることができなかった。ですので、ここに来たときの感覚、そしてまた被ばく者の方と話をしたその経験について彼らと共有したいと思います。

ライブビデオを使ってどうしたらインタラクション（やりとり）ができるか。平和公園やいろいろなことをそのビデオを使って話をする、バーチャルリアリティーなどを使って広島に来るという感覚を、より多くの人に味わってもらおうようにやっていこうと思います。旅行で来ることができない人もいるかもしれません。

例えば、環境負荷を考えますと全員が広島に来るというのは良いことではないかもしれませんが。ですので、今のここにある経験をより多くの人に共有するためにはどうすればいいのかということを考えてと思います。コトラー先生、どうすればいいのでしょうか。頭で分かっていること、それが本当に心に染みるようにするにはどうすればいいのでしょうか。

○フィリップ・コトラー（ノースウェスタン大学ケロッグ経営大学院 SC ジョンソン&

サン特別教授)

バーチャルリアリティーというのが役に立つのかもしれないね。

○竹内 弘高 (ハーバード大学経営大学院 教授)

Francesca さんどうぞ。

○Francesca Colombo

やはり特に家族と共有したいと思います。ビデオも撮りました。アートと文化ということですので、私にとってやはり仕事にもこれは生かしていけるとと思います。具体的に今どうするというのは分かりませんが、確実にやはり影響が出てくると思っています。強く必要性として感じるのは、イタリアの若い人にもこの経験を共有するということです。私はイタリアに住んでいますので、できるだけやりたいと思います。ビデオや写真もたくさん撮りましたので、これを使って共有したいと思います。帰ったらすぐにでもやりたいと思います。

○竹内 弘高 (ハーバード大学経営大学院 教授)

Drue さんどうぞ。

○Drue Kataoka

素晴らしい質問だと思います。本当にここに来ることができたのは、幸運なことだったと思っています。私はアーティストですので、やはりそういうアーティストとしての反応をしたいと思います。バーチャルリアリティーを今たくさん使っているのです。バーチャルリアリティーができるスタジオもシリコンバレーで持っています。ですので、いろいろなアイデアを使ってインスタレーションな作品を作れると思います。ここで見た素晴らしい経験の美しさ、パワーというものをうまく技術を使ってそれを伝えていきたいと思っています。

それからもうひとつ、博物館を出るとき記帳にサインをするのです。しかし、もしかしたらどういうアクションを取るかということを知っていてもいいのかもしれない。いろいろなイメージがあって、そして遺品などがあったわけです。ですので、例えば技術力を使ってインスタレーションをそこに置いて、いろいろなオプションを出してインスピレーションを受けたわけですから、1週間でも数日後ということではなくて見た直後に何をしますか、あなたは世界を良くするために何をしますかということを知っていてもいいかもしれません。

○竹内 弘高 (ハーバード大学経営大学院 教授)

シリコンバレーからたくさん来ておられますよね。スタンフォードの卒業生もおられますが、何ができるか。すなわち皆さん帰られてから何ができるか、博物館を出てから何ができるかということですよね。あなたは呼吸ができなかったとおっしゃいましたよね。まず呼吸がしたかった。ただ単にペーパーだけではなくってということですね。

○Francesca Colombo

はい。私が考えていることは非常にチャレンジングなことです。すなわち博物館におそらくあまり行かないという人に対してどのようにするかということです。こういったことはやはり課題チャレンジでもあるわけです。特に私は驚くべき経験、その印象を受けたわけです。ブレイズ・パスカルが言っていたことですが、これらのさまざまな言葉が示されていました。すなわち宇宙のなかでこれほど破壊されたことはない。しかしながら、思考が非常に極限までいったときにこのようなことが起こってしまう。これはやはり最も重要なステートメントだと私は思いました。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

記憶をするということですか。

○Francesca Colombo

2番目のところなのですが、「cause」ということではちょっとここでお伝えすることはできないのですが、写真を見るだけでも分かりますよね。非常に悲劇的なアーチファクトがあると。これを見るだけでわれわれは人生とは何かということを考えさせられるわけです。われわれは十分に人生を考えているのかということ。そして、世界を変えるためにわれわれは十分に考えてきたのかということを目問自答させられてしまいます。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

松田さんどうですか。ほかにフロアの方。黒い服の方ですか。手が挙がっていたと思いますが、どうでしょうか。

○林 絢子（公益財団法人ブラン・インターナショナル・ジャパン ファンドレイジング部マネジャー）

このアングルに二つのコメントに関しましてこちらのコメントということですが、日本語を使ってよろしいですか。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

あなたの英語は十分素晴らしい英語ですので、英語を使ってください。あなたが話す英語が良かったのです。

○林 絢子（公益財団法人ブラン・インターナショナル・ジャパン ファンドレイジング部マネジャー）

いや、私は日本人の方にも聞いてほしいのです。日本人の方にも聞いていただきたいのですが。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

では、皆さんひとつ、二つ通訳の受信機が足りないですね。英語が二つ。

○林 絢子（公益財団法人ブラン・インターナショナル・ジャパン ファンドレイジング部マネジャー）

Are you ready?

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

こちらのほうがいいのですよね。

○林 絢子（公益財団法人ブラン・インターナショナル・ジャパン ファンドレイジング部マネジャー）

セッション2で登壇した林と申します。広島での出来事について少し見方を広げたくて私の経験をシェアしたいと思います。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

1分半でお願いします。

○林 絢子（公益財団法人ブラン・インターナショナル・ジャパン ファンドレイジング部マネジャー）

はい。実は、私の祖父が長崎出身でして、広島同様原爆の経験をしている人間です。さらに言いますと、私の祖父は中国人です。私はクォーターになります。つまり私の祖父は中国人にして原爆を経験した人間なのです。幸運にも私の祖先である家族全員安全だったわけなのですが、そのことを知ったときに私は非常に衝撃を受けました。

知る前までは長崎・広島というのは、日本は原爆の被害者であるという見方をしていました。私の祖父が中国人にしてその経験をしたという事実を知ったときに、急に私のなかでも見方が変わって、必ずしも日本の問題ではないと。その場に外国人がいたということも少し皆さんのなかで知っていてほしいと思いました。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

ありがとうございます。コメントありますか。

○コーエン

それでは、YGLの方に質問があります。コーエンと申します。オーガナイザーの一人なのですが、さまざまなセクターからの人がいらっしゃいます。そして、広島に集まりました。ネットワークをつくろうということなのですが、これは1回のイベントで終わってはいけません。素晴らしいアイデアをシェアなせるネットワークを構築するということですが、皆さま方の継続的な広島への関与を確保するにはどうすればいいか。皆さんがどのようにしてこのネットワークを続けていけるかということですよ。また、皆さんが変えていただくにはどうすればいいのでしょうか。これは私の質問です。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

Elaineさんどうですか。

○Elaine Smith

多くの人は戻ってくると思います。そして、またシェアさせていただきたいと思います。いわゆるソリダリティーですね。さまざまな戦いに関してわれわれもほかの人との連帯の気持ちがあります。核問題だけではありません。さまざまな面での連帯感というものを構築しなければならない。広島があるからです。広島自身がこういったみんなが集まるところを提供していただきたい。私は80年代、核戦争というのは非常に恐ろしいものだと思いました。ですから、若い世代にこれを絶対その継承をさせてはいけなかつたのです。

それから人権もそうです。連帯感をどのようにわれわれが構築していくか。ほかの人と同じような経験をシェアする。このようなドラマティックな悲劇的な経験というものをシェアするということが重要です。そのシェアはやはり広島がすべきだと思っています。ですから、やはりこれは狭い協議の意味だけではなく広い意味で考えていかなければならないと思います。

この世界経済会議ですが、イベントに教育プログラムがあります。ハーバード、スタンフォード、さまざまな素晴らしい大学が関与しているので、広島大学でもすべきだと思うのです。これこそがやはり世界経済会議とは違うかもしれないけれど、やらないといけないと思います。そうすると、周りの人々がやってきて平和について学ぶことができると思うのです。これはやはりフォーラムから発信できることだと思っています。

○発言者不明

素晴らしいです。お答えしたいことがあります。YGL で学んだこと、最も重要なことですが、これはひとつの、あるいは特別なグループの問題ではないのです。日本だけではないし広島だけの問題でもない。中国だけでもない、スペインだけでもない。科学者だけでなくピースメーカーのものだけでもない。これはすべてコンバインした（組み合わせた）努力というものが重要だと思ふのです。

そして、YGL の JoCox が言っていたのですが、実際に亡くなった方ではありますが、彼が言っていたのです。すなわちここで話していたこと、コネクションです。すべての人がつながってさまざまな社会、さまざまな文化とつながることが重要です。私はさらにサイエンティストです。サイエンティストのバリューは何なのか。アーティストのバリューは何なのか。社会の価値は何なのか。

それぞれの価値を聞く、共有することによってわれわれは学ぶことができるわけです。科学者のレベルだけではなく人類のレベルではなくすべてのレベルで学ぶことができる。そうすることによって、初めて変化を起こすことができると思ふのです。それこそが重要なこと。すなわちコミットメントするということです。これこそやはり共通のこと、つながりを持つことをさらに具現化していくことが重要でしょう。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

最後のコメントお願いいたします。グさん。

○グ

ここでシンプルな提案をしたいと思ふます。これはマーケティングの会議ですよ。この会議のハッシュタグはあるのですか。この部屋のすべての人が今日インスタグラムでツイートして宣言しないとイケない。集合的でソーシャルメディアがパワフルだと言っていますよね。そして、意識を高めることができるということであれば、われわれがまず手を挙げなければ。1 回ツイートするだけでいいのです。1 回投稿するだけです。すなわち平和への宣言です。そうすると、もう一人のあるいはほかの人々を、何百万を呼び込むことができると思ふのです。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

素晴らしいアイデアだと思ふます。はい、どうぞ。

○グ

ハッシュタグは何ですか。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

#powerwbgcwp2016 ですね。

○グ

もう一度言ってください。

○竹内 弘高（ハーバード大学経営大学院 教授）

会議のレターありますか。#wbcwp2016 となっていると思います。world business conference world peace（ワールドビジネスカンファレンスワールドピース）です。この文字のところですか。これを打っていただければいいと思います。これがハッシュタグです。

ありがとうございました。皆さんが今日来てくださいましたことを非常にうれしく思っています。シェアしていただいた方もありがとうございます。われわれと経験を共有してくださったこと、ありがとうございます。オプションがありました。もっと広島でのツアーをしていただくということですが、それをやめてこちらに来ていただいたことありがとうございました。そして、時間をシェアしていただいたことについてもお礼を申し上げたいと思います。

最後のコメントですが、私には二人子どもがおります。彼らはシエラ・ハーシーと一緒に時間を長く過ごしました。ジョン・ハーシーの娘さんなのです。私の妻のベストフレンドというのは、ジョン・ハーシーの娘さんなのです。彼らはケンブリッジに住んでおります。皆さんジョン・ハーシーを知っていると思いますが、『ヒロシマ』という本を彼は書きました。当時「*hiroshima*」と発音していました。

このジョン・ハーシー氏というのはその本を書きまして、あるニューヨーカーの記事として書いてそれが最終的に本になりました。そのあとベストセラーになりました。だれにでも何かひとつ日本についての本を推薦してもらえますかと言われますと、常にこのジョン・ハーシーの本を勧めています。6人の方々がさまざまな経験をしてその経験についてジョン・ハーシーがとてもうまく生き生きと書き表しております。だからここの本はとても強い影響力を持ったわけです。

今日学んだことは、本当にサイエンティスト、それからエンジニア、そしてアーティストがいてくださるおかげでわれわれは新しいやり方でお互いにつながっていくことができるということです。キーワードはコネクティビティーだと思います。インスタグラ

ムやそれ以外のことも使っていけると思います。そして、今日はこんなことを思ったよと。

ジョン・ハーシーはその記事を書くのに1年かかったわけですが、今日であればすぐにそれは書けるわけなのです。今おっしゃったアイデアは素晴らしかったと思います。テクノロジーを使って博物館を出たあとにすぐに何かアクションを取ってもらう。そういうのもいいアイデアだと思います。皆さん多くの方がシリコンバレーから来られていますし、あなたはスタンフォードからですよ。ですので、ぜひあるものをもっと有効活用していきましょう。1947年というのはいぶん昔のことでした。しかしながら、それでも非常に大きな影響力を持ち得たわけです。

申し上げたいのは、私の子どもたちがシエラの親友であるということなのです。しかし、以前は敵国の出身者であったということなのです。マーティン・ルーサー・キングの話もありました。彼はスピーチのなかで「私の4人の小さな子どもたちがいつか皮膚の色ではなくて人格で判断される国に住むことになるだろう」とおっしゃっていました。彼が使ったメタファーは次世代ということ。皆さんの経験に関しては次世代に引き継いでいきましょう。そして、次世代が影響を受けていくと思います。ありがとうございました。

○司会者

竹内先生ありがとうございました。1時間の滞在ということで、どうぞ気を付けて東京にお帰りください。それから、ヤンググローバルリーダーズの皆さんありがとうございました。東京から参加の方もありがとうございました。グループ写真を撮りますので前に集まってください。

皆さまありがとうございました。以上をもちましてセッション5を終了いたします。これより休憩を挟みまして17時30分よりワークショップ1を開始いたします。そのほかのワークショップ会場のご案内ならびに会場変更のお知らせです。ワークショップ3「平和とCSR」が3階大3会場。ワークショップ4「平和と食」が3階大4会場。ワークショップ5「BOP ビジネス」が3階大5会場。ワークショップ6「Peace Technology」が2階大6会場となっております。配布プログラムをご参照の上ご参集のほどよろしく願い申し上げます。

続きまして、会場変更のお知らせです。ワークショップ2「平和と教育」の会場が3階大会場から2階大7会場に変更。ワークショップ7「平和とマーケティング」が2階大7会場から3階大会場に変更になりました。お間違いのないようお願い申し上げます。

(了)